

愛知県の人口動向

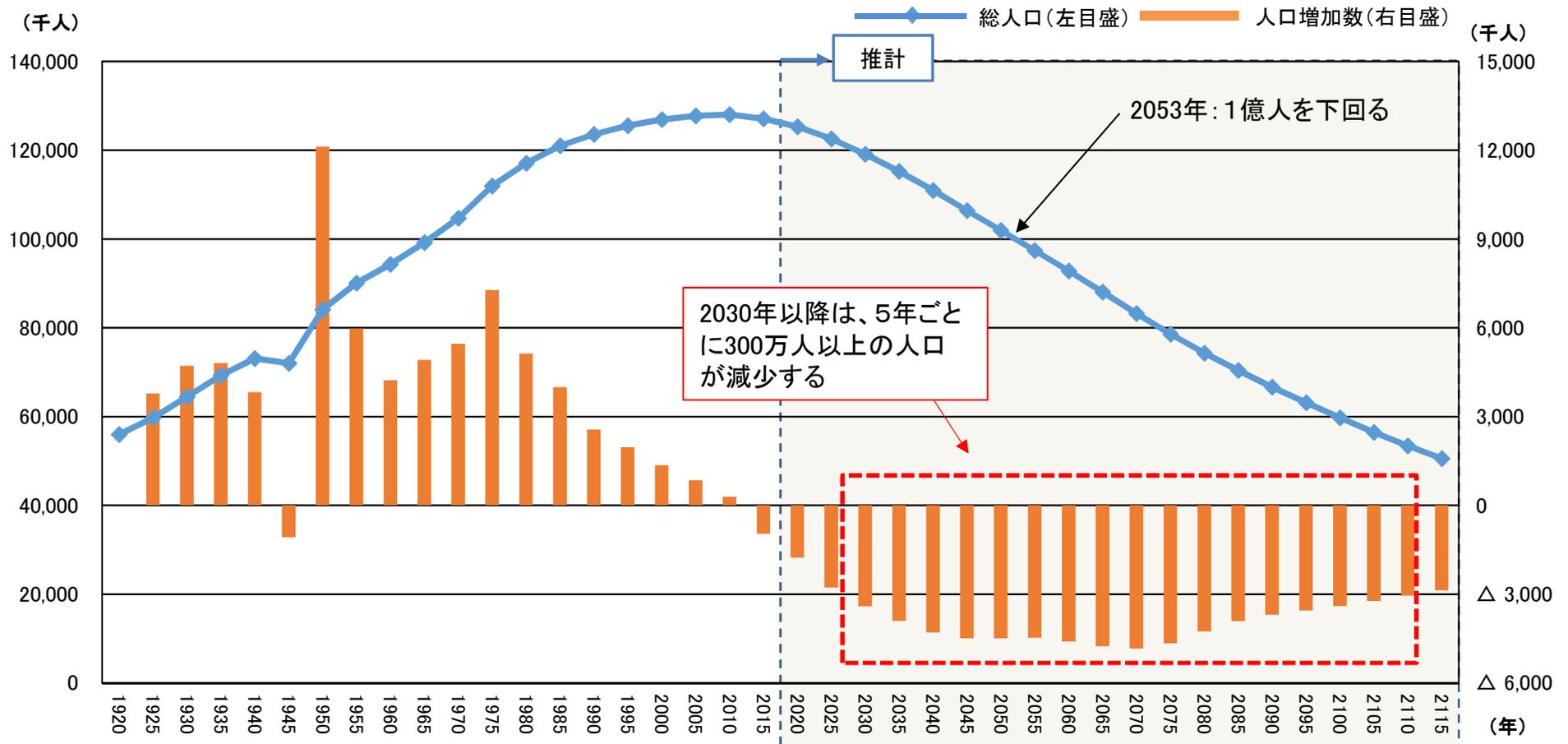
愛知県まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議資料

2019年7月22日

日本の人口の推移と将来人口



- 我が国の人口は減少を続けており、国立社会保障・人口問題研究所(社人研)の推計(平成29年推計(中位推計))によると、2030年以降は、5年ごとに300万人以上の人口が減少する見込みとなっている。
- その結果、2053年には1億人を下回り(9,924万人)、2065年には8,808万人になるものと推計されている。



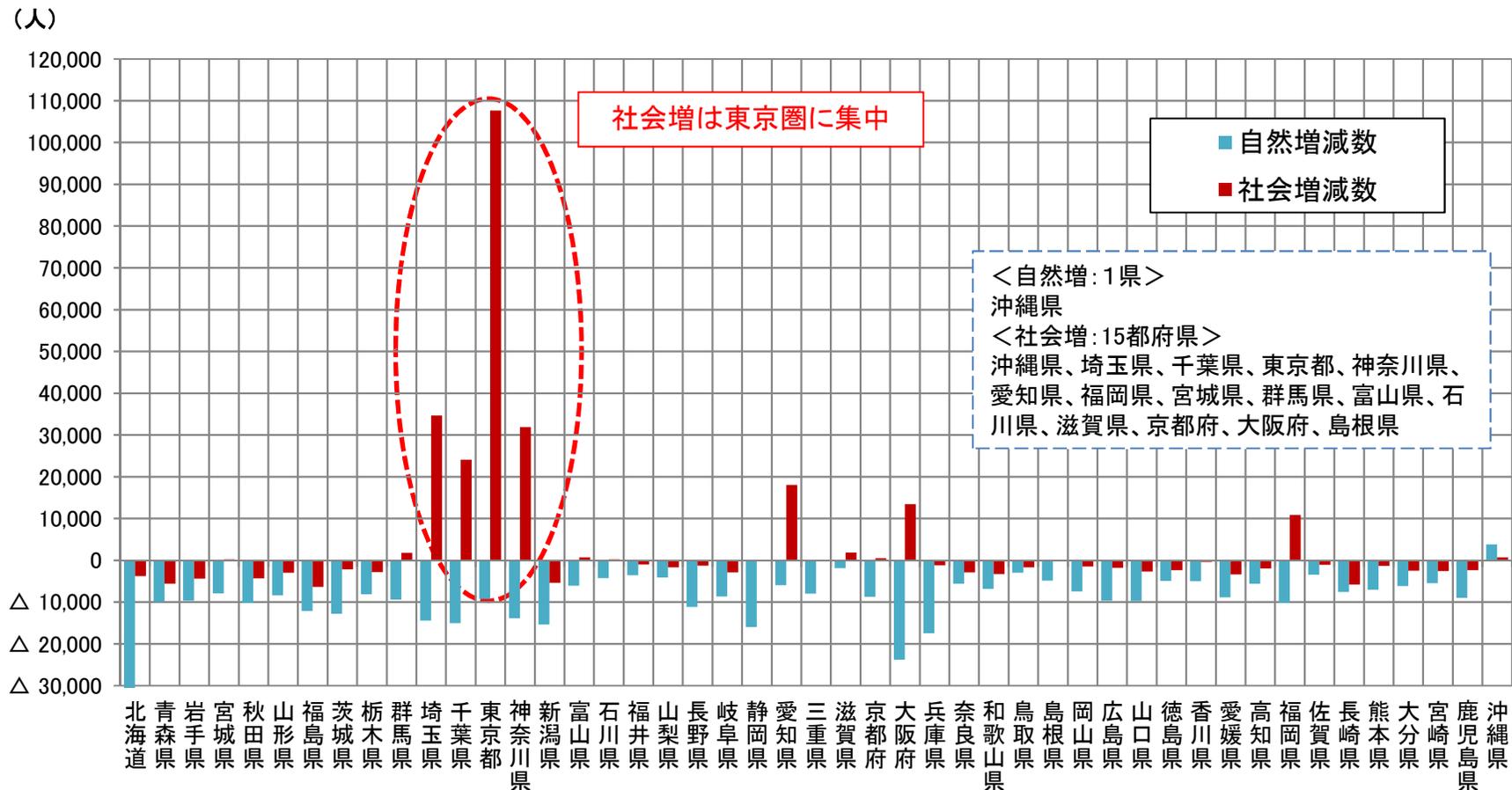
出典: 2015年までは総務省「国勢調査」、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」をもとに作成

人口の自然増減・社会増減



○ 自然増は沖縄県のみとなっている。社会増は東京都、埼玉県、神奈川県、千葉県、愛知県、大阪府、福岡県など15都府県であり、東京圏に集中している。

都道府県別 人口の自然増減・社会増減(2017.10~2018.9)

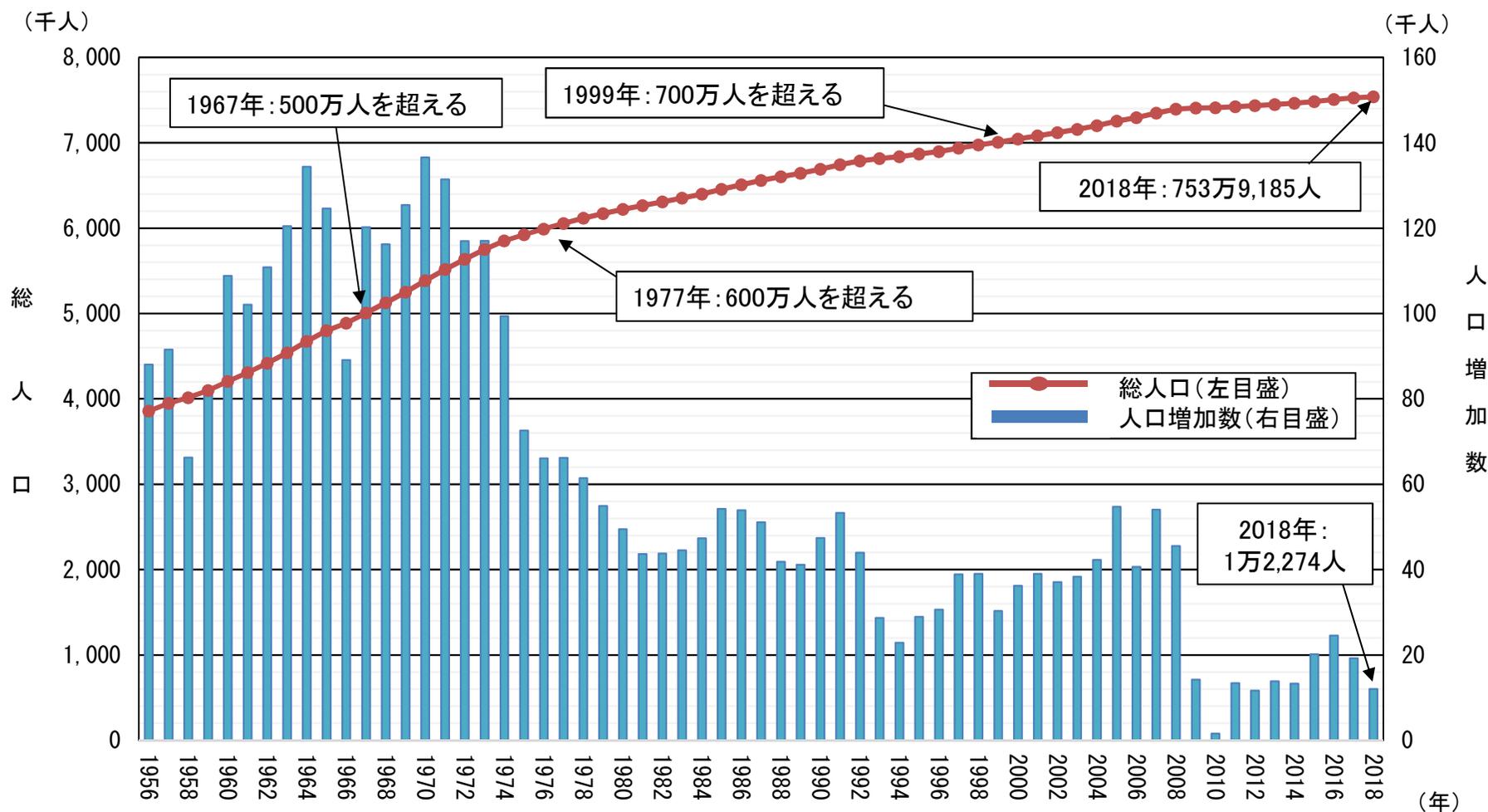


出典: 総務省「人口推計」をもとに作成

愛知県の人口の推移



○ 本県の人口は、2018年10月1日時点で753万9,185人となっており、我が国の人口が減少する中であって、人口増加を維持している。

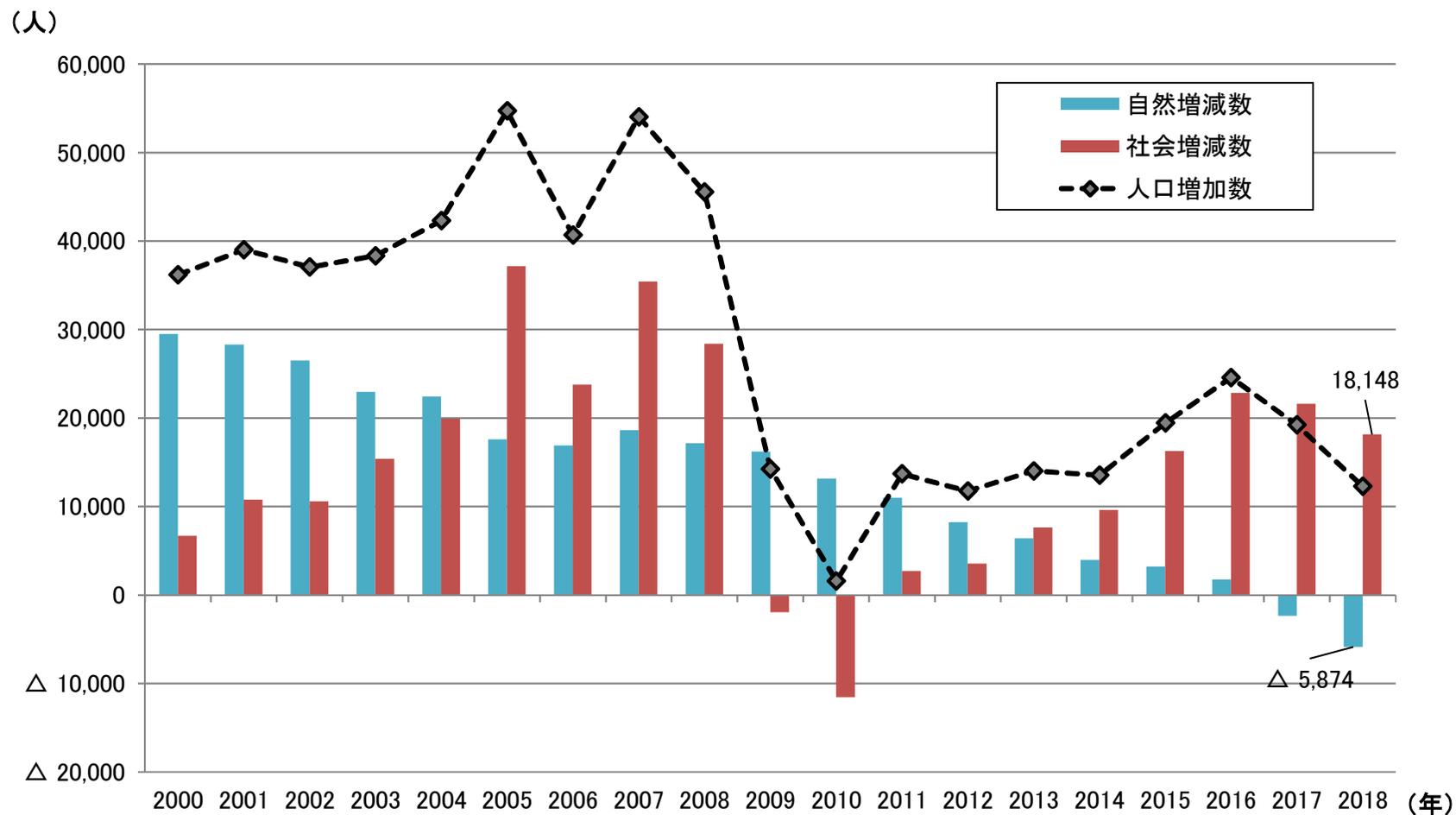


出典: 愛知県県民文化局「あいちの人口」をもとに作成 ※総人口は各年10月1日現在、人口増加数は前年10月～当年9月

愛知県の人口増減数の推移(要因別)



○ 本県の人口の自然増減数は、2017年に減少に転じて以降、2年連続で減少となっている。一方で社会増減数は、良好な経済環境の中で、2万人程度の増加を続けており、自然減を社会増が補う形で人口増加を維持している状況にある。



出典:愛知県県民文化局「あいちの人口」をもとに作成 ※人口増減数は前年10月～当年9月

愛知県の人口増減数の推移(日本人・外国人別)



- 本県は人口増加を維持しており、2018年には12,274人の増加となったものの、日本人と外国人に分けると、日本人は4,521人の減少、外国人は16,795人の増加となっている。
- また、要因別に人口の動きをみると、自然増減数については、日本人のマイナス幅が拡大する中で、外国人は増加を維持している。一方、社会増減数については、日本人、外国人ともに増加を続けているものの、社会増加数全体に占める外国人の割合が年々上昇している。

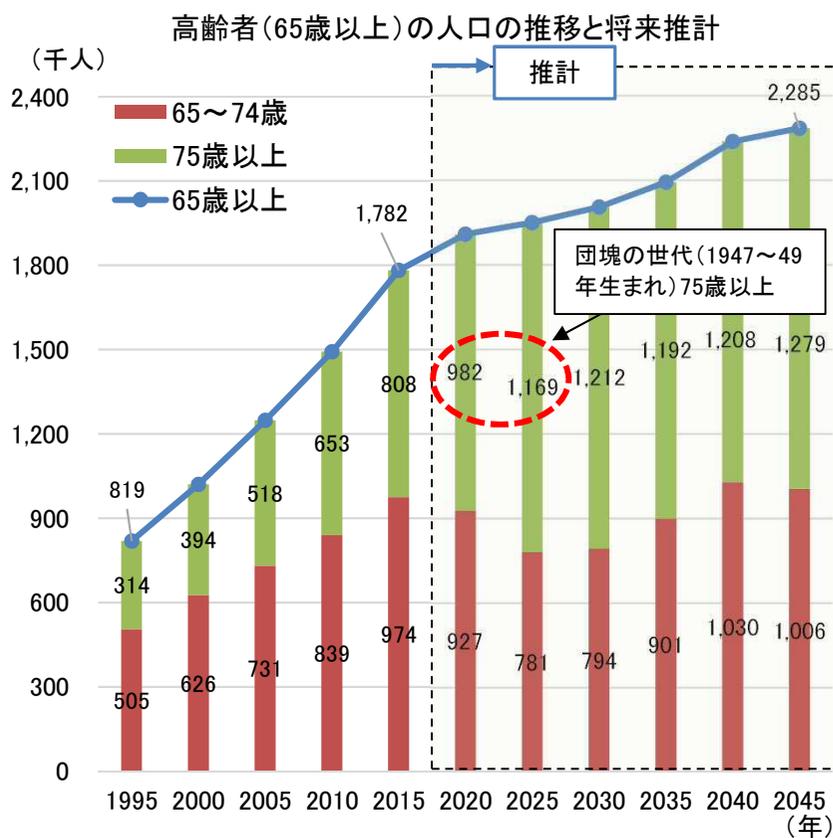
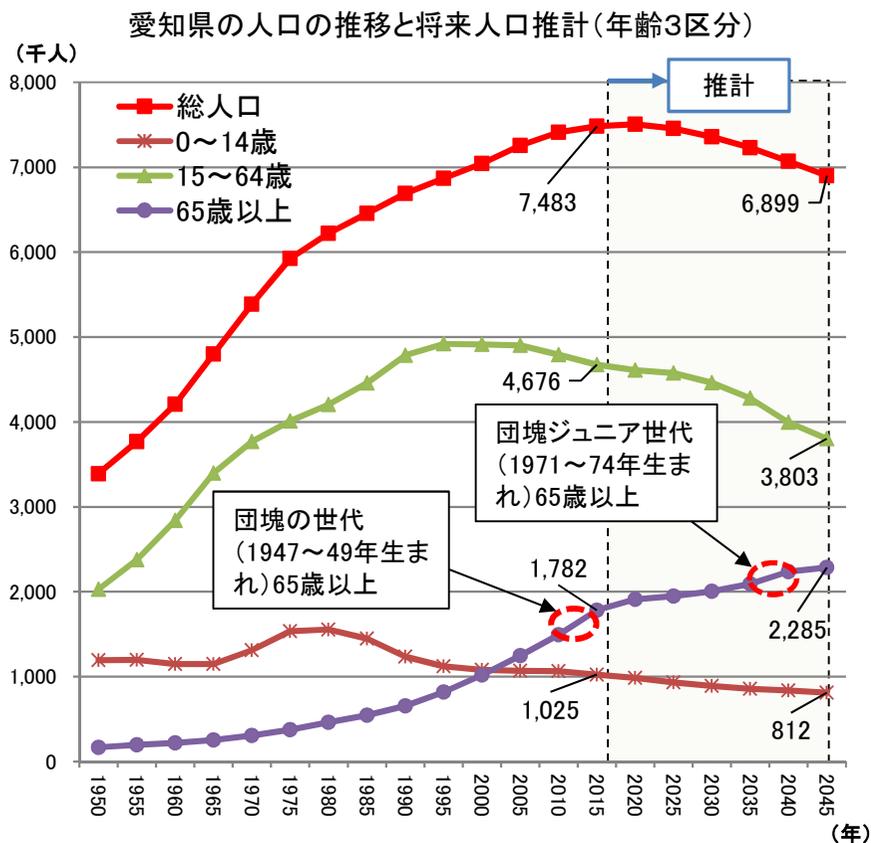
期間	人口増減数								
		日本人		外国人		自然増減数		社会増減数	
		日本人	外国人	日本人	外国人	日本人	外国人	日本人	外国人
2015年10月 ～2016年9月	24,563	9,120	15,443	1,752	303	1,449	22,811	8,817	13,994
2016年10月 ～2017年9月	19,220	2,532	16,688	△2,368	△3,743	1,375	21,588	6,275	15,313
2017年10月 ～2018年9月	12,274	△4,521	16,795	△5,874	△7,387	1,513	18,148	2,866	15,282

出典: 愛知県県民文化局「あいちの人口」をもとに作成 ※人口増減数は前年10月～当年9月

愛知県の人口の推移と将来人口推計(年齢3区分)



- 国立社会保障・人口問題研究所(社人研)が2018年に公表した将来人口推計によると、本県の人口は2020年をピークに減少に転じ、2045年には、689万9千人まで減少する見込みとなっている。
- 年少人口(0~14歳)、生産年齢人口(15~64歳)が減少する一方で、65歳以上の高齢者が大きく増加している。今後、団塊の世代が75歳以上となる2020年~2025年にかけて、75歳以上の人口が増加し、65~74歳の人口を大きく上回ることが見込まれる。

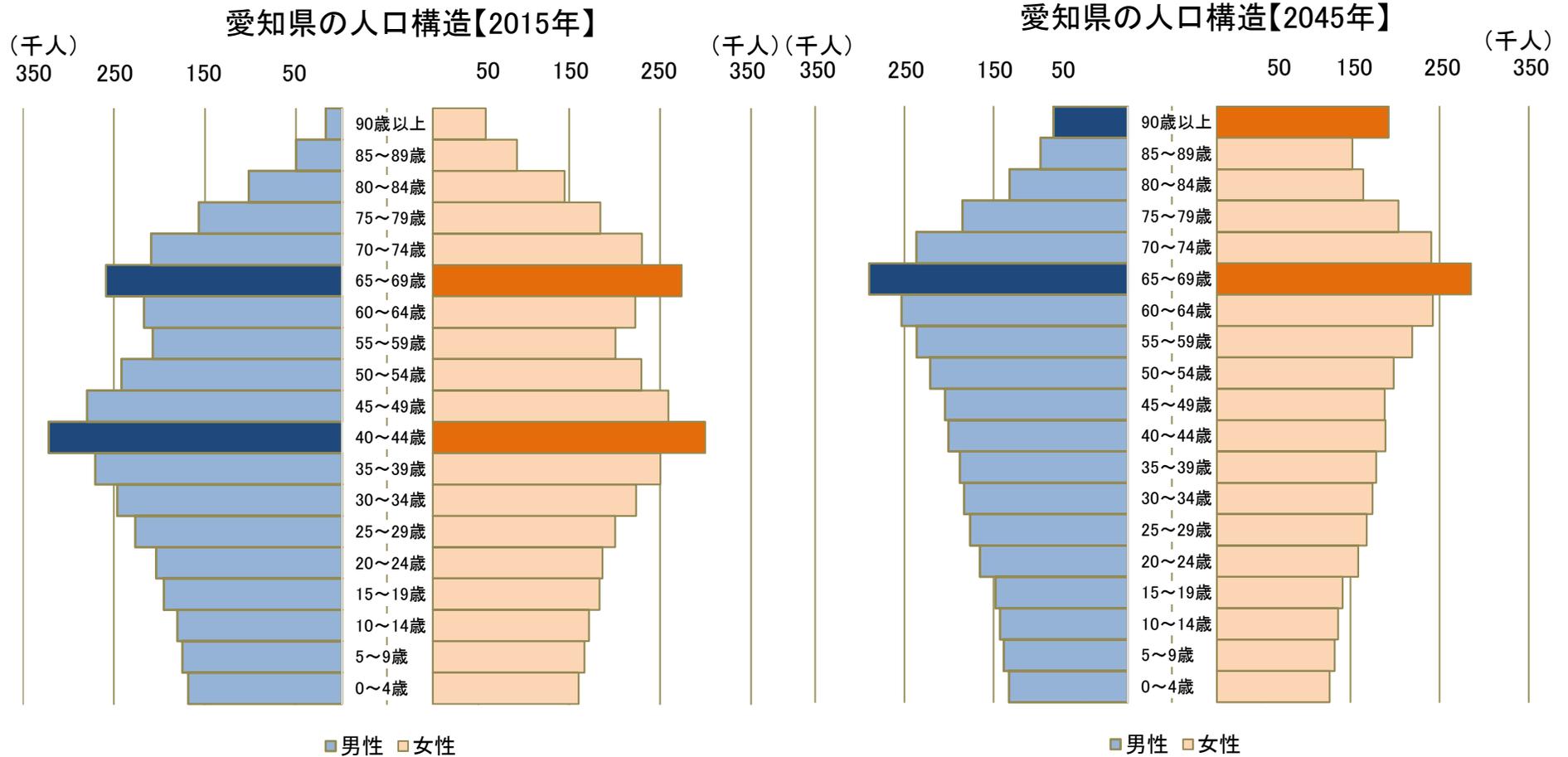


出典: 2015年までは総務省「国勢調査」、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」をもとに作成

愛知県の人口構造



- 本県の人口構造(2015年)を人口ピラミッドで見ると、団塊の世代(1947~1949年生まれ)と団塊ジュニア世代(1971~1974年生まれ)の2つの大きな山がある。
- 将来的には、老年人口の増加と年少人口及び生産年齢人口の減少が相まって、逆三角形に近づいていく。

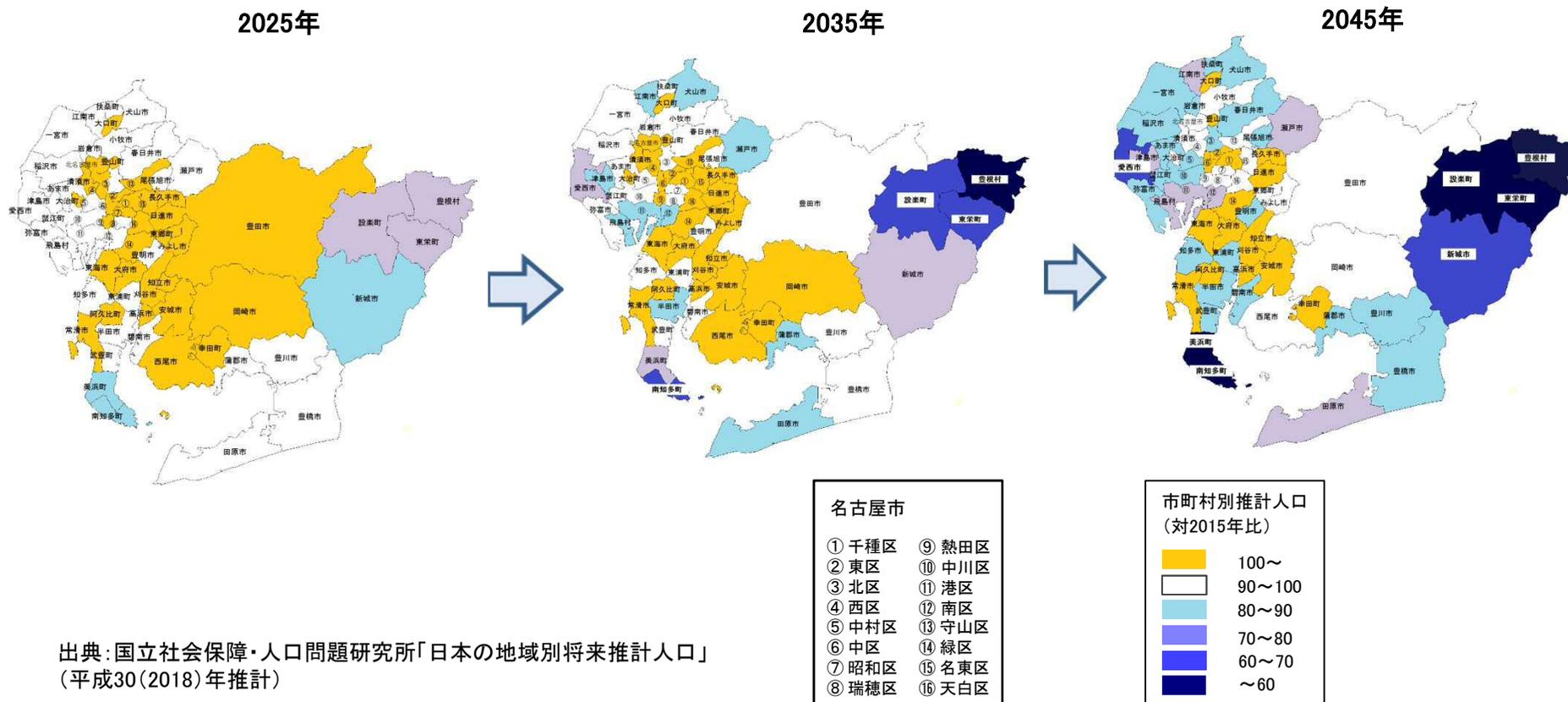


出典: 2015年は総務省「人口推計」、2045年は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」をもとに作成

市町村別推計人口(社人研推計(2018年))



○ 国立社会保障・人口問題研究所(社人研)が2018年に公表した市町村別推計人口によると、名古屋市近郊の尾張東部地域や産業が集積する西三河地域などで当面人口増加が続く一方で、三河山間地域や知多半島南部などで人口減少が急速に進むことが見込まれている。



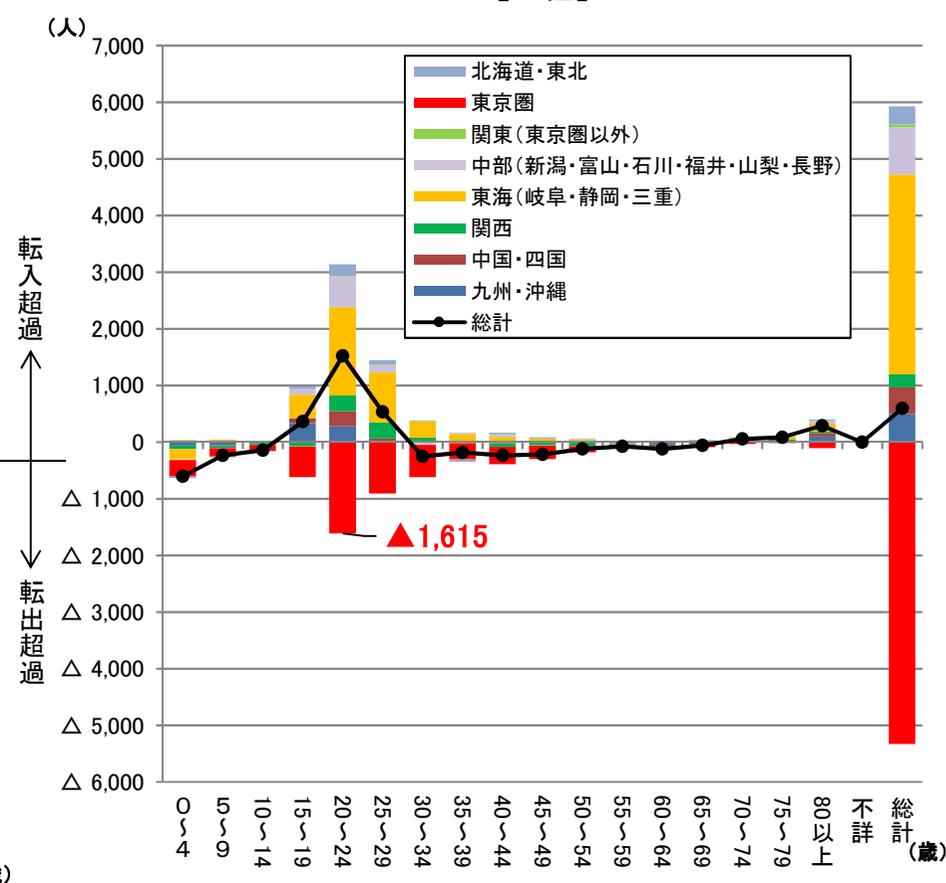
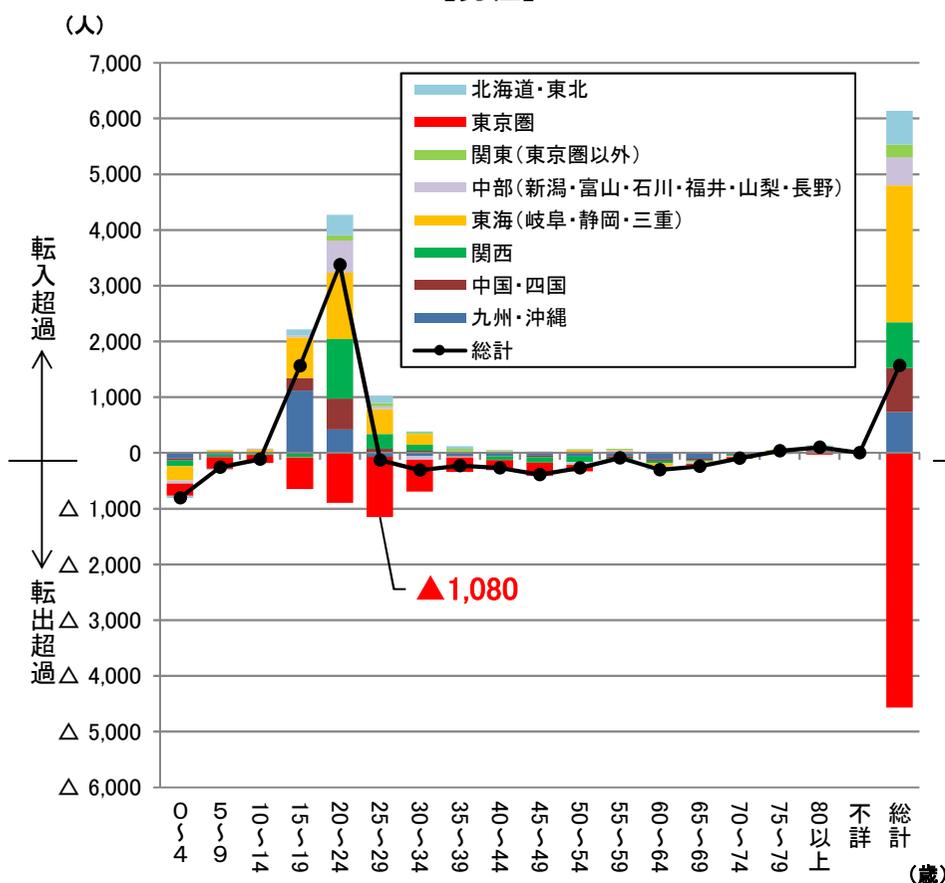
男女・年齢階級別の人口移動の状況



- 男性は、15～24歳で東海、関西、九州・沖縄などを中心に大幅な転入超過となっているが、東京圏（東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県）に対しては、転出超過が大きくなっている。
- 女性は、15～29歳で転入超過となっているものの、超過数の合計は男性ほど大きくはない。一方、東京への転出超過数は男性よりも大きく、特に大学卒業後の就職時に当たる20～24歳が顕著。

【男性】

【女性】



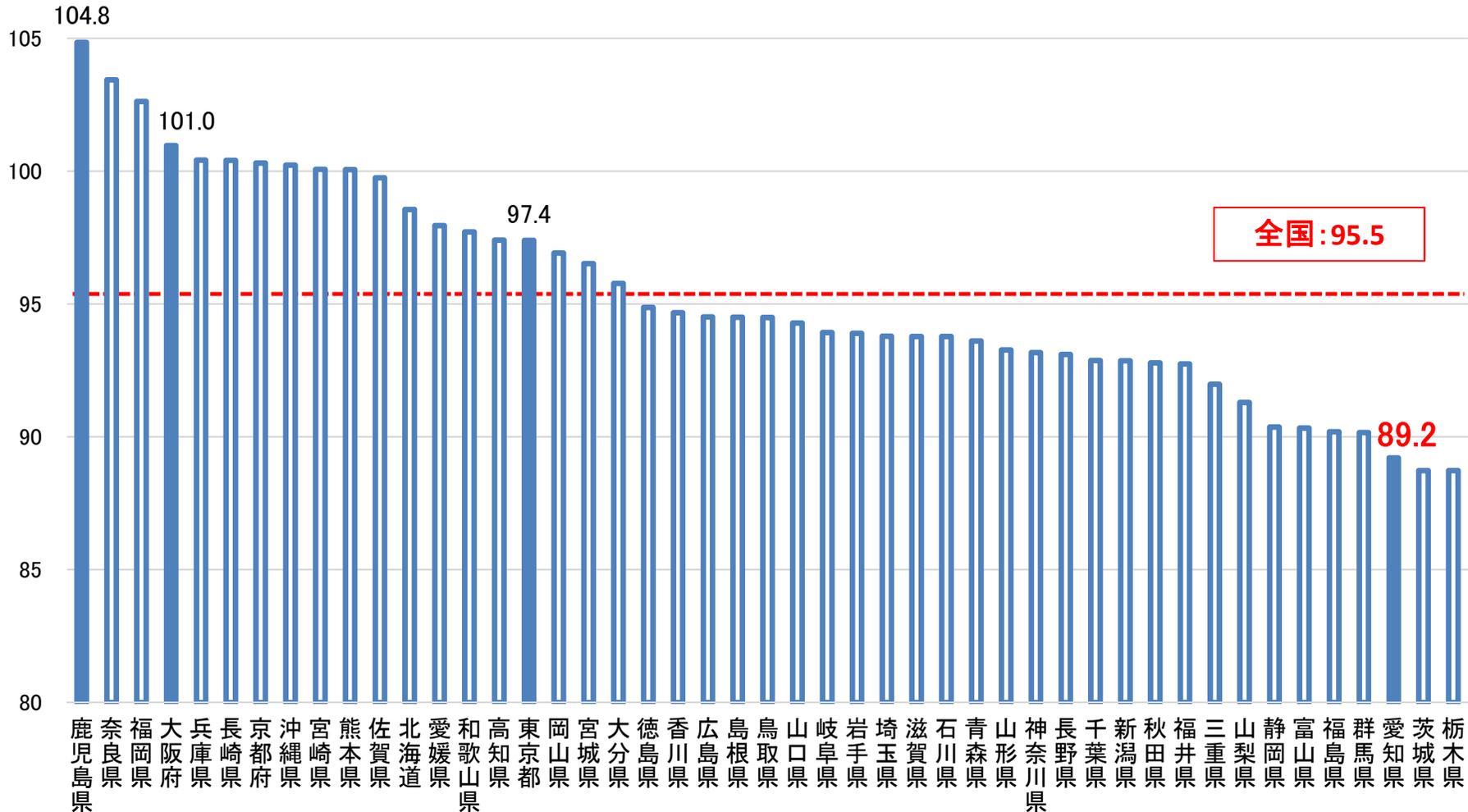
出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」をもとに作成 ※2018年1月1日から12月31日までの移動の計、日本人のみ

人口の男女性比



○ 20～39歳の男性100人に対する同世代の女性数を都道府県別に見ると、愛知県は全国で3番目に少ない。

20～39歳の男性100人に対する同世代の女性数(都道府県別)

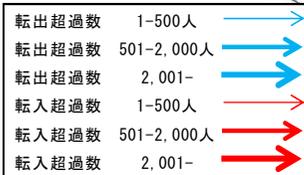
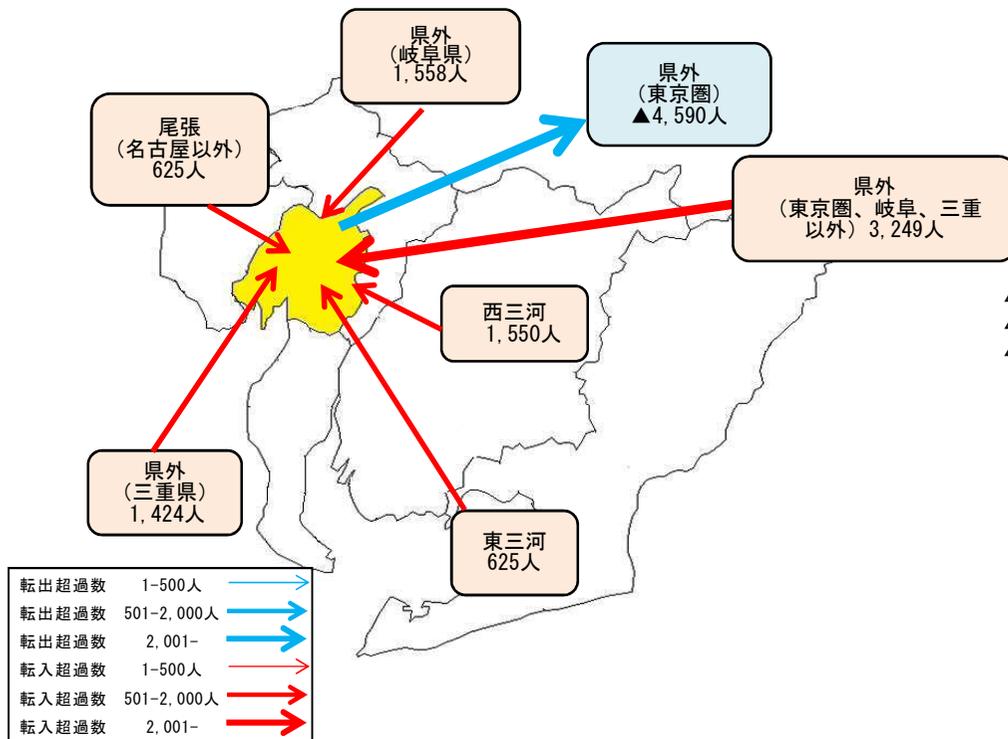


出典: 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」もとに作成 ※2019年1月1日現在、日本人のみ

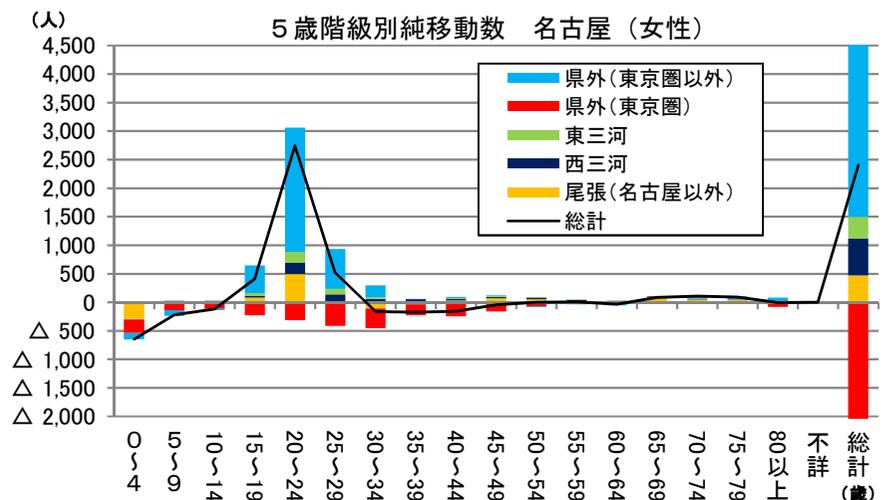
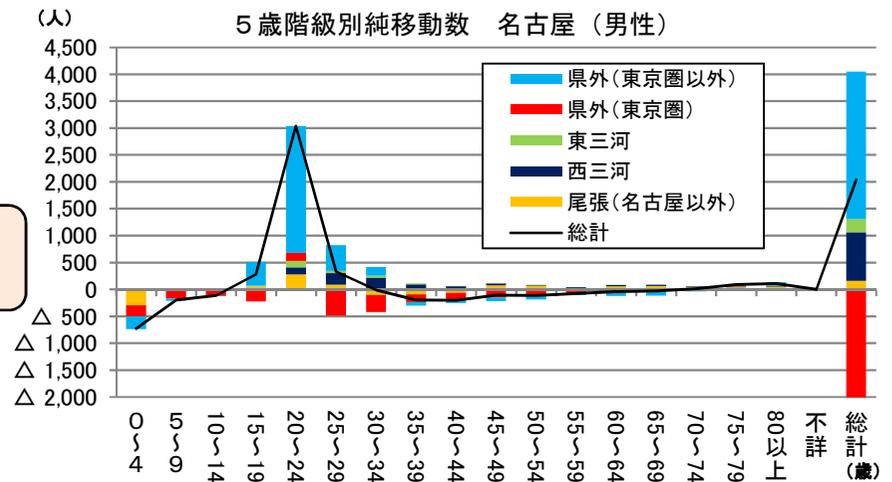
地区別の転出入の状況①(名古屋)

- 名古屋地域の転出入は、4,441人の転入超過となっている。東京圏以外は、県内外全ての地域に対して転入超過となっている。
- 男女ともに、20~24歳の若者層を中心に転入超過となっている。

名古屋地域における転出入の状況 (2018年)



	2015年	2016年	2017年	2018年
転入超過数(県内)	2,490人	2,422人	1,883人	2,800人
転入超過数(県外)	4,786人	3,528人	2,991人	1,641人
転入超過数(県外うち東京圏)	-	▲3,265人	▲2,936人	▲4,590人
転入超過数(総計)	7,276人	5,950人	4,874人	4,441人

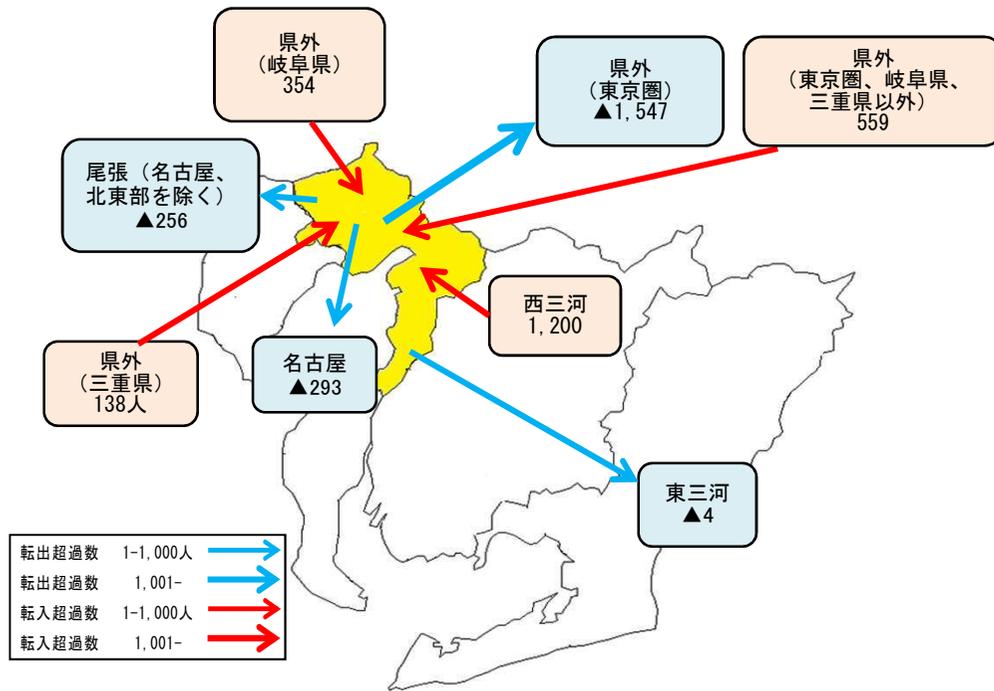


出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」をもとに作成 ※2018年1月1日から12月31日までの移動の計、日本人のみ

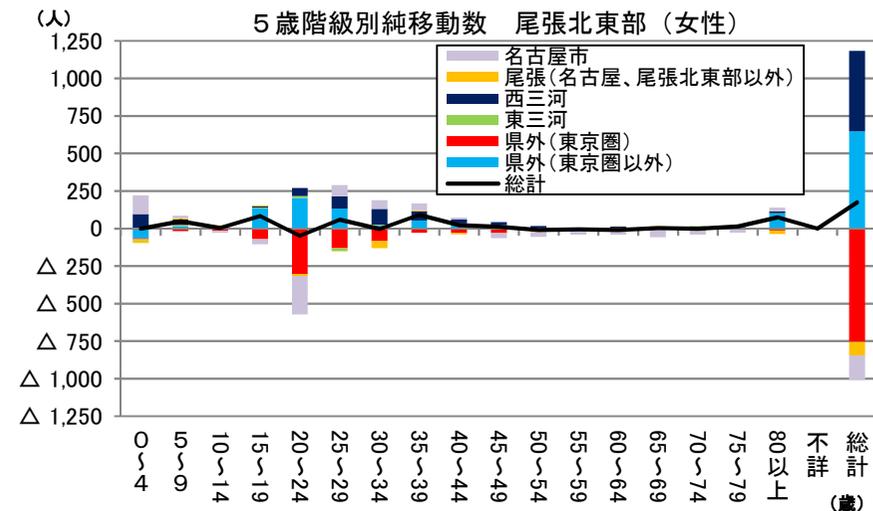
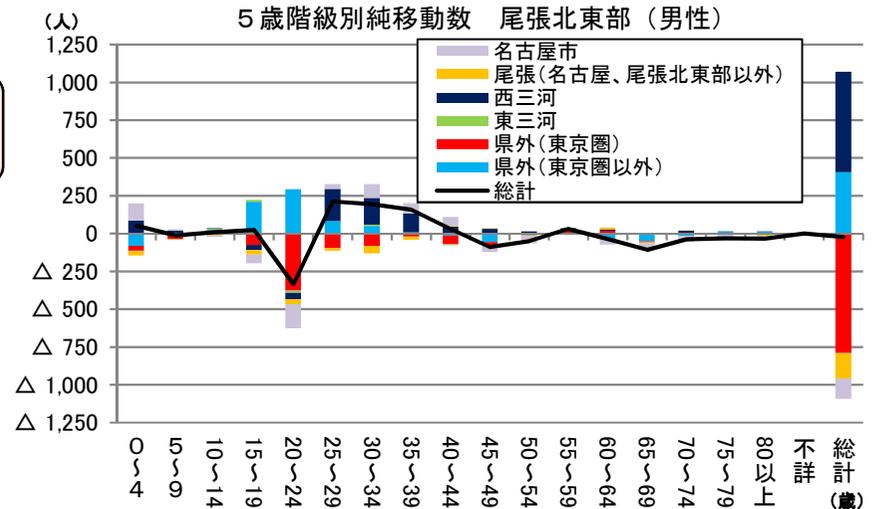
地区別の転出入の状況②(尾張北東部)

- 尾張北東部地域の転出入は、151人の転入超過となっている。西三河、東京圏以外の県外に対して転入超過、名古屋、尾張、東三河、東京圏に対しては転出超過となっている。
- 男女ともに、25～34歳を中心に転入超過となっている。

尾張北東部地域における転出入の状況 (2018年)



	2015年	2016年	2017年	2018年
転入超過数(県内)	1,573人	537人	15人	647人
転入超過数(県外)	110人	46人	▲326人	▲496人
転入超過数(県外うち東京圏)	-	▲1,285人	▲1,465人	▲1,547人
転入超過数(総計)	1,683人	583人	▲311人	151人

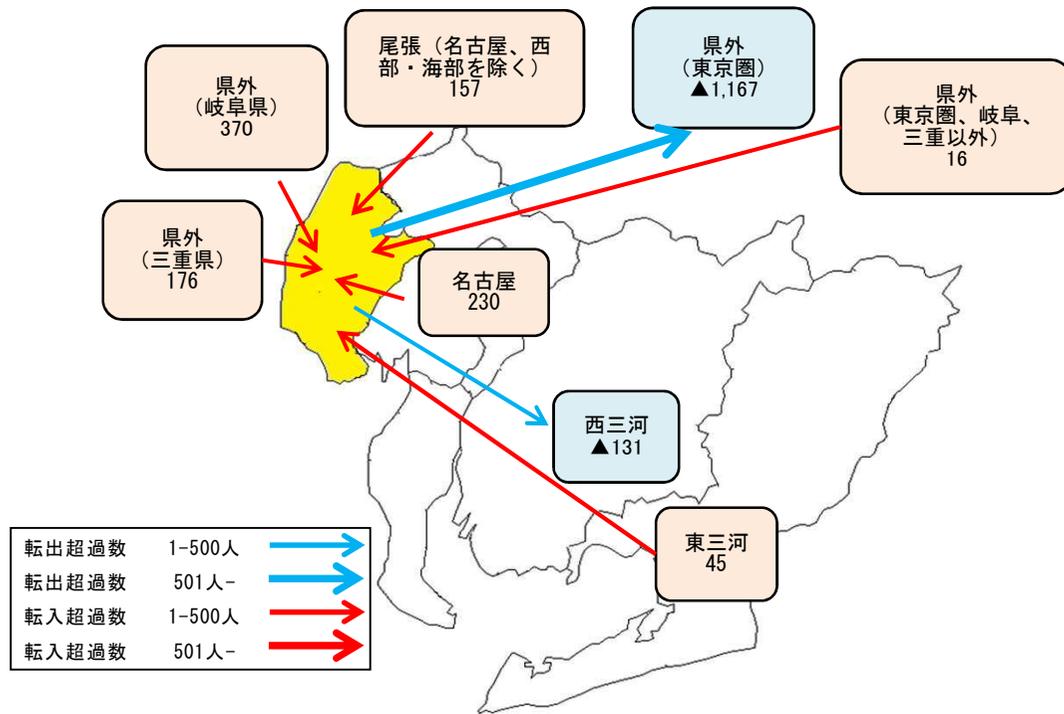


出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」をもとに作成 ※2018年1月1日から12月31日までの移動の計、日本人のみ

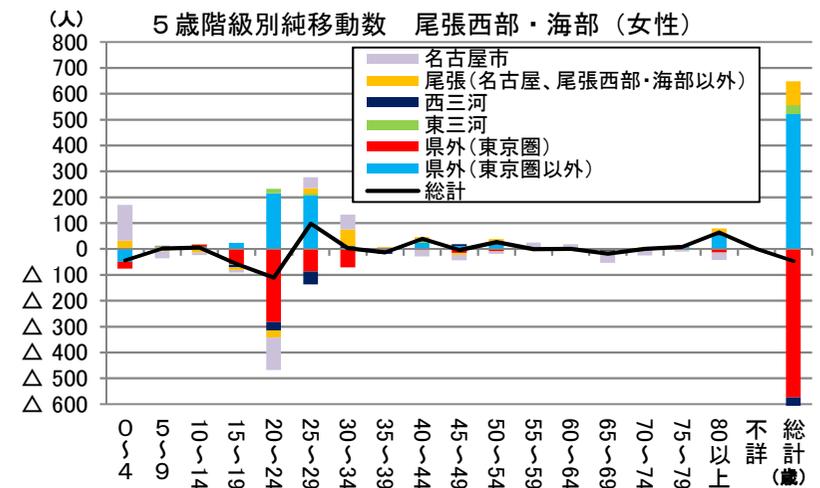
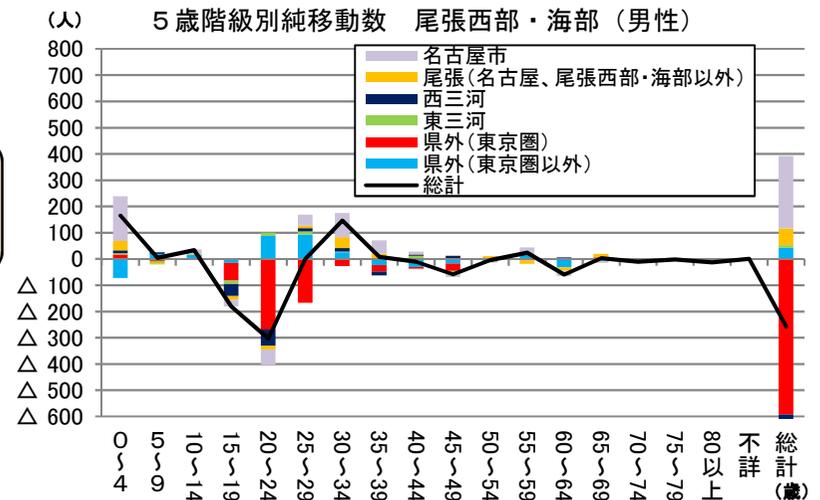
地区別の転出入の状況③(尾張西部・海部)

- 尾張西部・海部地域の転出入は、304人の転出超過となっている。名古屋、尾張、東三河、東京圏以外の県外に対して転入超過、西三河、東京圏に対しては転出超過となっている。
- 男女ともに、15～24歳を中心に転出超過となっている一方、男性は30～39歳が転入超過となっており、女性は25～34歳が転入超過となっている。

尾張西部・海部地域における転出入の状況 (2018年)



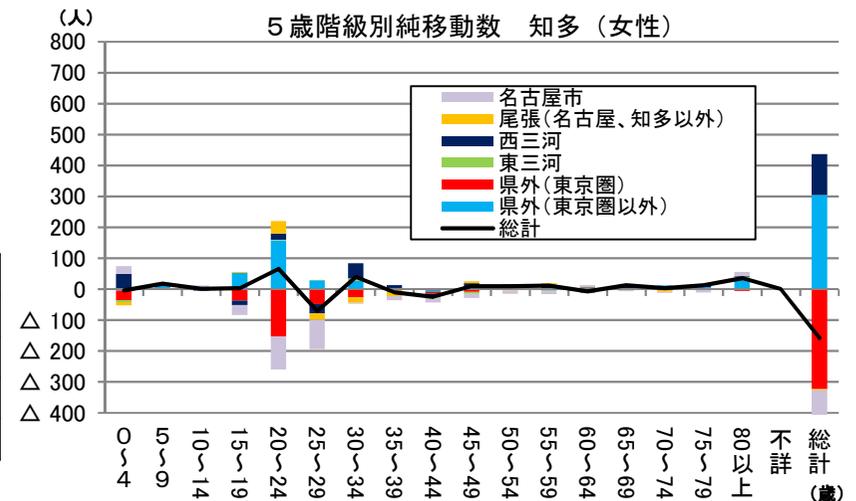
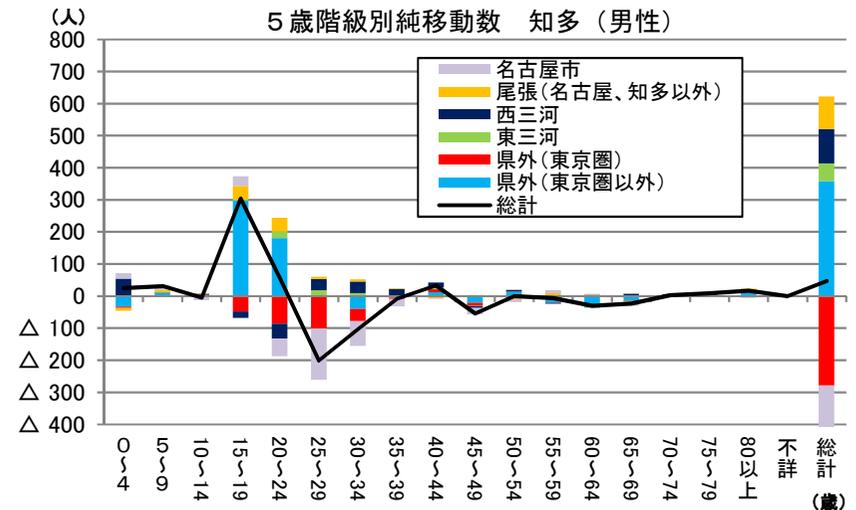
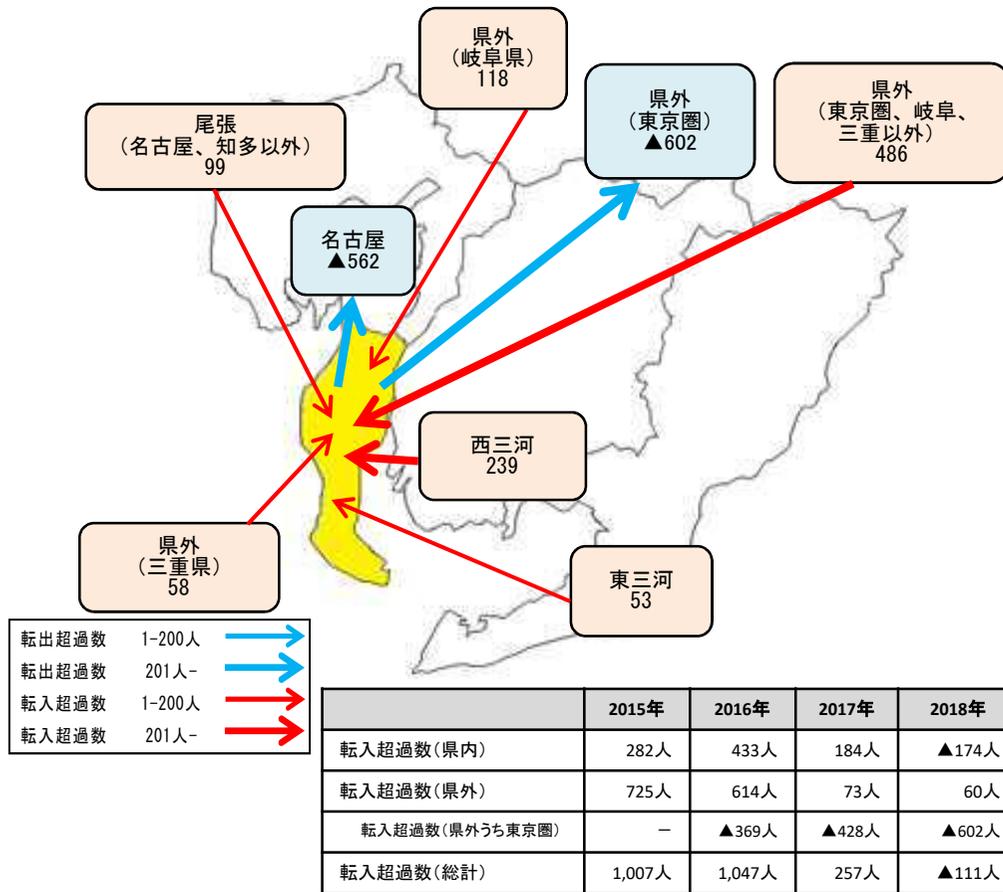
	2015年	2016年	2017年	2018年
転入超過数(県内)	▲146人	285人	977人	301人
転入超過数(県外)	▲284人	▲74人	▲41人	▲605人
転入超過数(県外うち東京圏)	-	▲657人	▲831人	▲1,167人
転入超過数(総計)	▲430人	211人	936人	▲304人



地区別の転出入の状況④(知多)

- 知多地域の転出入は、111人の転出超過となっている。尾張、西三河、東三河、東京圏以外の県外に対して転入超過、名古屋、東京圏に対しては転出超過となっている。
- 男性は15～24歳を中心に転入超過となっている一方、25～34歳が転出超過となっている。女性は25～29歳を中心に転出超過となっている。

知多地域における転出入の状況 (2018年)

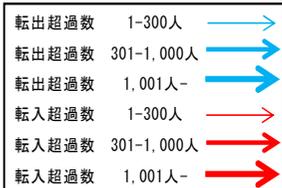
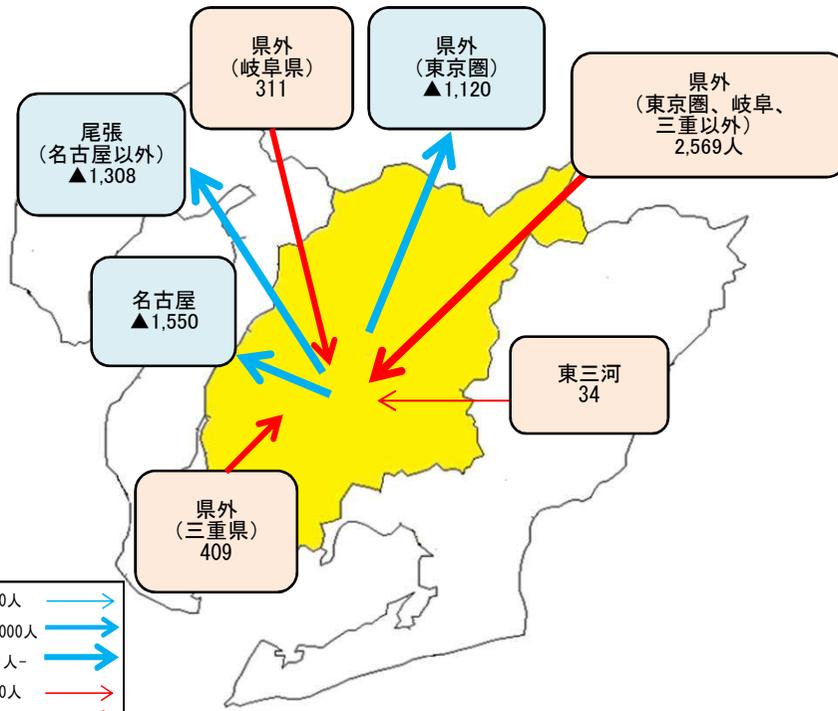


出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」をもとに作成 ※2018年1月1日から12月31日までの移動の計、日本人のみ

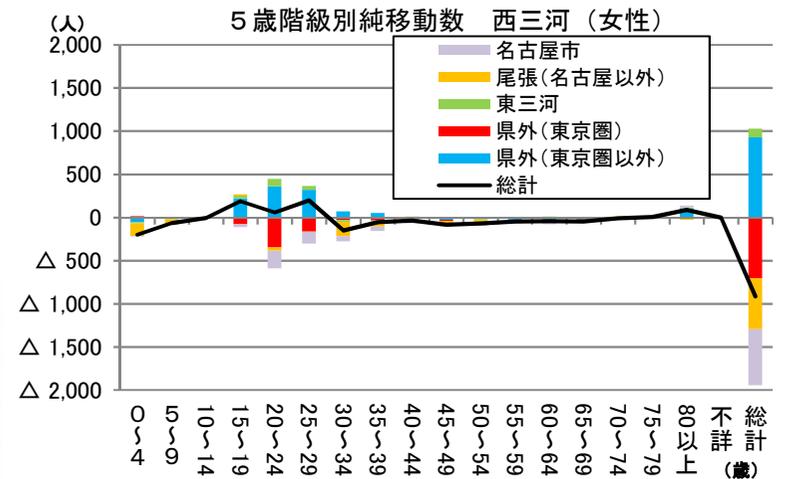
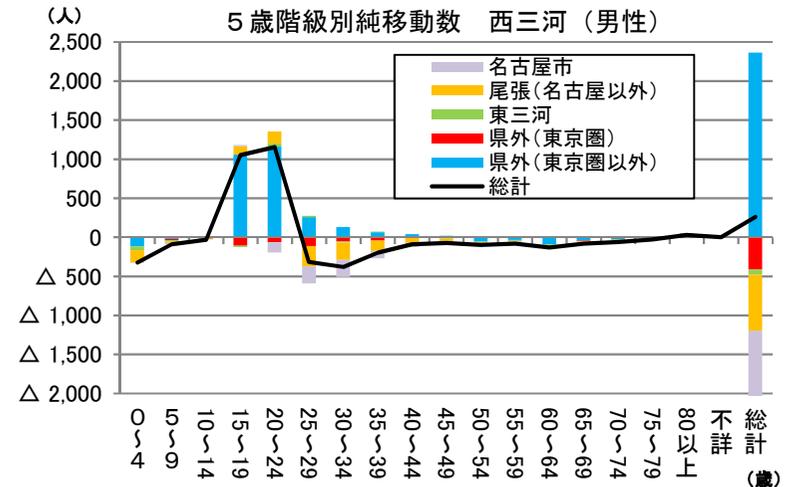
地区別の転出入の状況⑤(西三河)

- 西三河地域の転出入は、655人の転出超過となっている。東三河、東京圏以外の県外に対して転入超過、名古屋、尾張、東京圏に対しては転出超過となっている。
- 男性は、15～24歳を中心に大幅な転入超過、25～29歳以降は転出超過傾向となっている。女性は、15～29歳が転入超過、30～34歳以降は転出超過傾向となっている。

西三河地域における転出入の状況 (2018年)



	2015年	2016年	2017年	2018年
転入超過数(県内)	▲2,901人	▲2,548人	▲2,137人	▲2,824人
転入超過数(県外)	3,249人	2,746人	2,474人	2,169人
転入超過数(県外うち東京圏)	-	▲772人	▲829人	▲1,120人
転入超過数(総計)	348人	198人	337人	▲655人

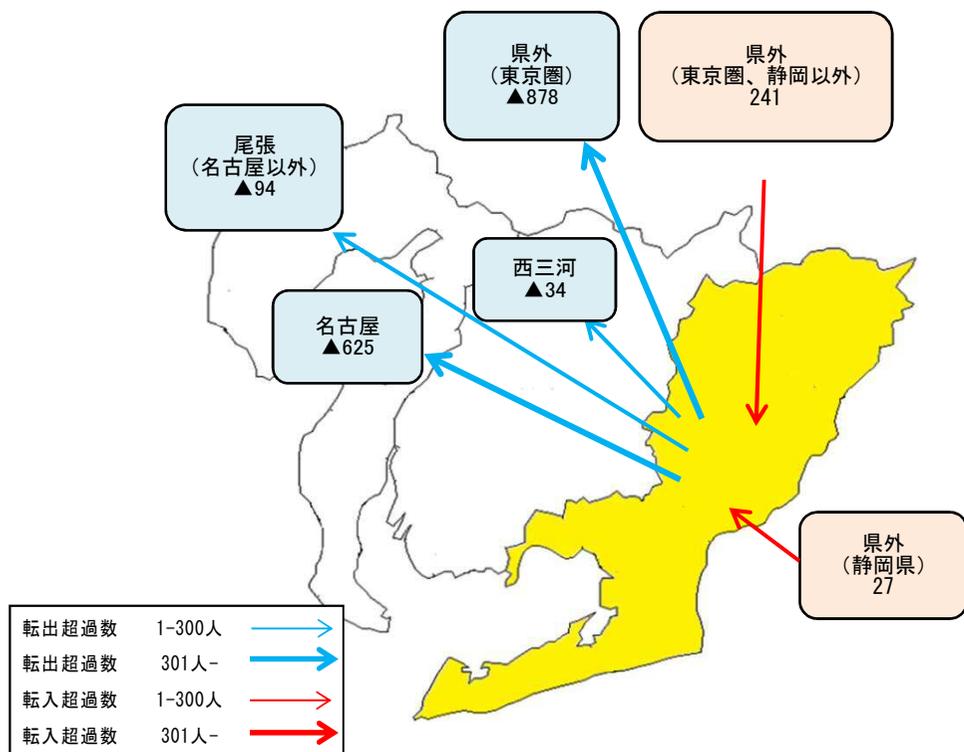


出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」をもとに作成 ※2018年1月1日から12月31日までの移動の計、日本人のみ

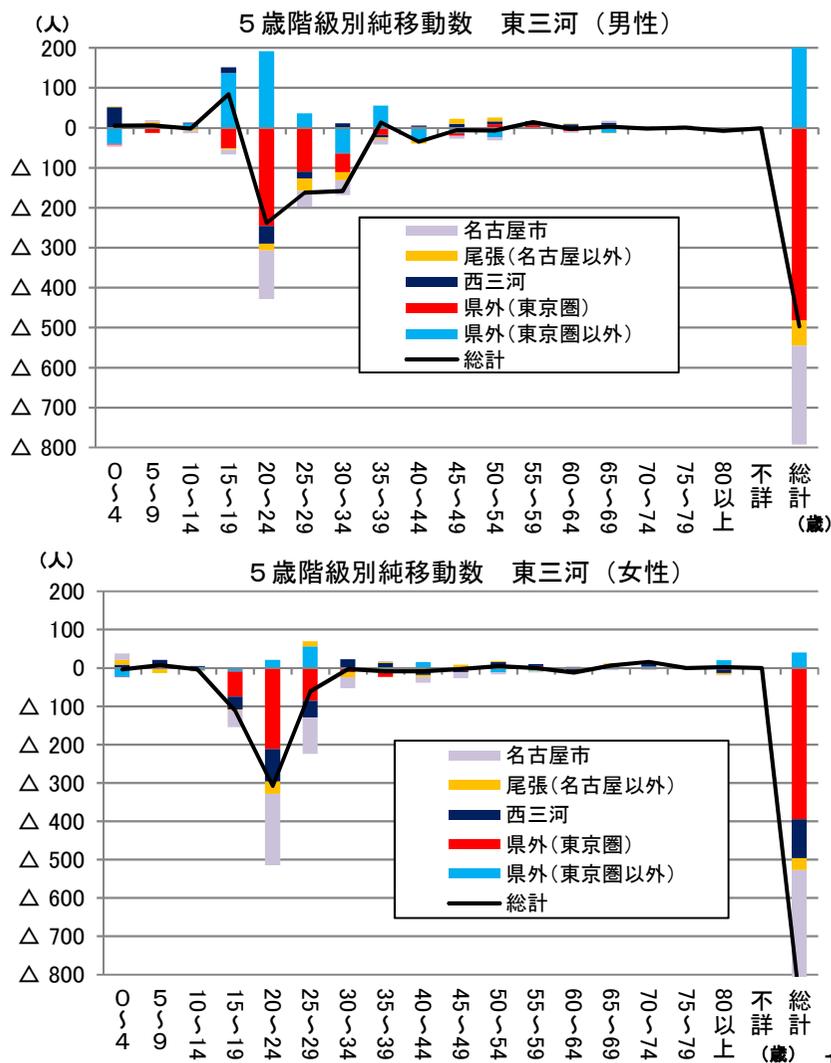
地区別の転出入の状況⑥(東三河)

- 東三河地域の転出入は、1,363人の転出超過となっている。東京圏以外の県外に対して転入超過、名古屋、尾張、西三河、東京圏に対しては転出超過となっている。
- 男女ともに、20～29歳を中心に転出超過となっている。

東三河地域における転出入の状況 (2018年)



	2015年	2016年	2017年	2018年
転入超過数(県内)	▲1,298人	▲1,129人	▲922人	▲753人
転入超過数(県外)	▲264人	▲595人	▲332人	▲610人
転入超過数(県外うち東京圏)	-	▲801人	▲675人	▲878人
転入超過数(総計)	▲1,562人	▲1,724人	▲1,254人	▲1,363人



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」をもとに作成 ※2018年1月1日から12月31日までの移動の計、日本人のみ

県内大学就職状況調査について



- 県内大学の入学者の状況や志願者拡大に向けた取組、県内大学の学生の就職実態や、進学・就職に対する意識や考え方などを把握・分析するための調査を実施。

<調査の概要>

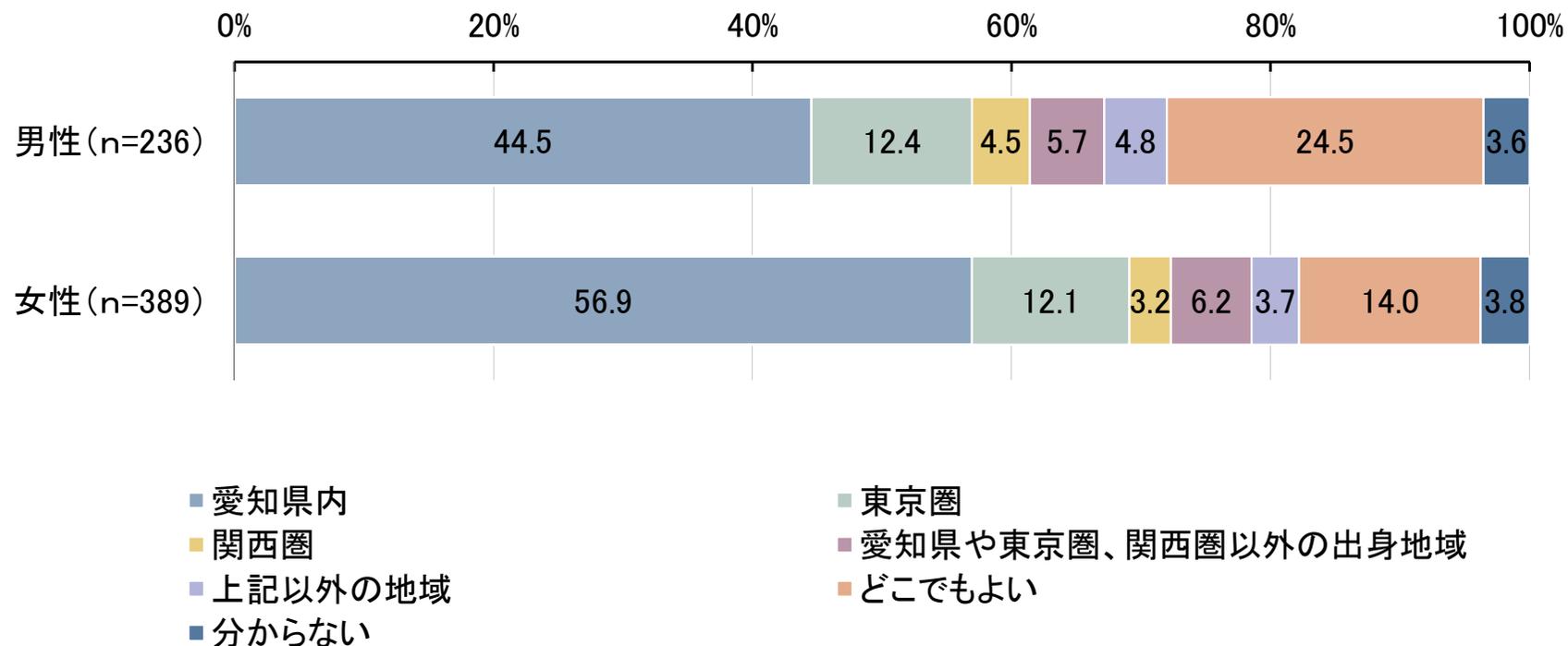
調査①: 県内大学の卒業生の就職 実態調査	<ul style="list-style-type: none">・入学生の出身高校の所在地や、卒業生の進路、就職先の本社所在地等を把握。・各大学の事務局(就職支援窓口等)に調査票を送付。・愛知県内に本部のある国公立・私立大学50校に対して依頼、48校から回答を得た。
調査②: 県内大学事務局へのアン ケート調査	<ul style="list-style-type: none">・学生獲得に向けた取組や就職支援の実態、就職に対する学生の意識等を把握。・各大学の事務局(就職支援窓口等)に調査票を送付。・愛知県内に本部のある国公立・私立大学50校に対して依頼、48校から回答を得た。
調査③: 県内大学の在学学生へのア ンケート調査	<ul style="list-style-type: none">・愛知県内に本部のある国公立・私立の大学に在学中の学生(学部生及び大学院生)の大学選択や卒業後の進路に対する意識を把握。・インターネットリサーチ・サービスを活用し、インターネット調査方式で実施。・回答者数:2,641人
調査④: 県内大学の卒業生へのア ンケート調査	<ul style="list-style-type: none">・最終学歴が愛知県の大学又は大学院である20代の男女の大学選択や卒業後に最初に就職した際の進路に対する意識、愛知県への移住意向等を把握。・インターネットリサーチ・サービスを活用し、インターネット調査方式で実施。・回答者数:1,030人(県内在住の者515人、県外在住の者515人)

県内大学在学生の就職に対する意識



Q: 将来、どの地域で働くことを希望しているか

○ 男女ともに「愛知県内」(男性:44.5%、女性:56.9%)の割合が最も高く、次いで「どこでもよい」(男性:24.5%、女性:14.0%)、「東京圏」(男性:12.4%、女性:12.1%)の順となっている。

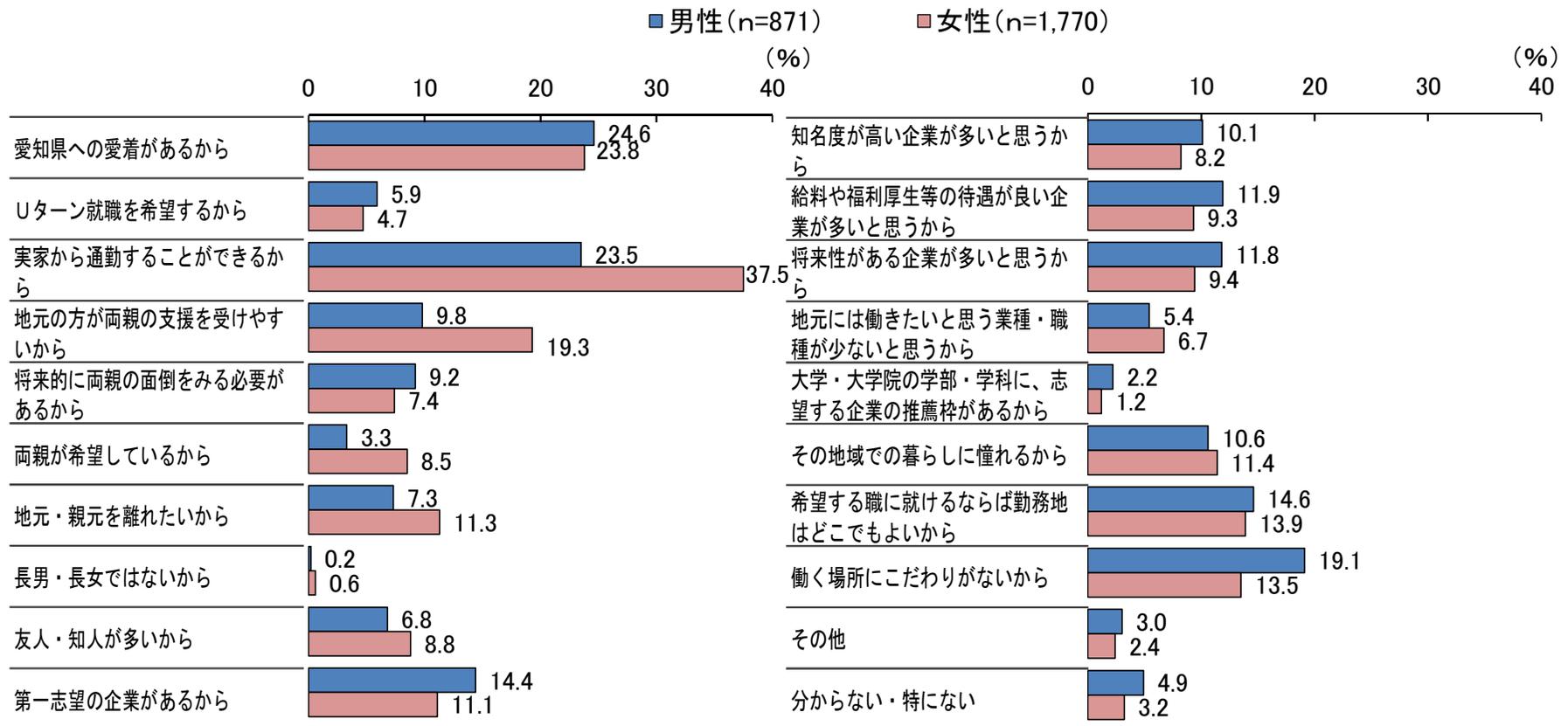


県内大学在学生の就職に対する意識



Q:なぜ、その勤務地を希望したのか

○ 男女とも、「愛知県への愛着があるから」(男性:24.6%、女性:23.8%)、「実家から通勤することができるから」(男性:23.5%、女性:37.5%)が上位であるものの、「希望する職に就けるならば勤務地はどこでもよいから」(男性:14.6%、女性:13.9%)、「働く場所にこだわりがないから」(男性19.1%、女性:13.5%)の割合も高くなっている。

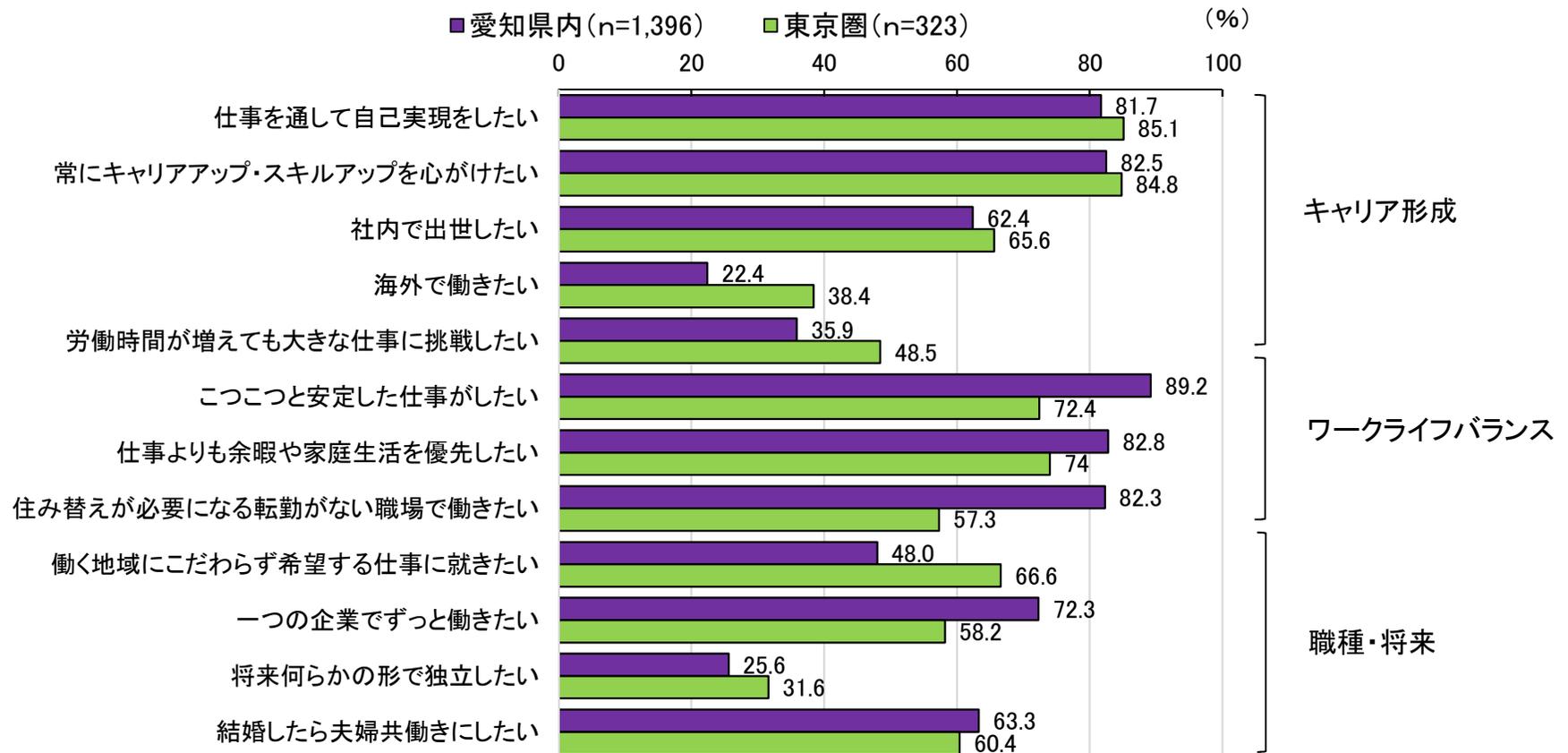


県内大学在学生の就職に対する意識



Q: 将来、どのような働き方がしたいと考えているか

- 希望する将来の働き方について、愛知県内での勤務を希望する学生は、「こつこつと安定した仕事がしたい」(89.2%)、「仕事よりも余暇や家庭生活を優先したい」(82.8%)などワーク・ライフ・バランスに関する項目が上位となっている。
- 一方、東京圏での勤務を希望する学生は、「仕事を通して自己実現をしたい」(85.1%)、「常にキャリアアップ・スキルアップを心がけたい」(84.8%)などキャリア形成に関する項目が上位となっている。



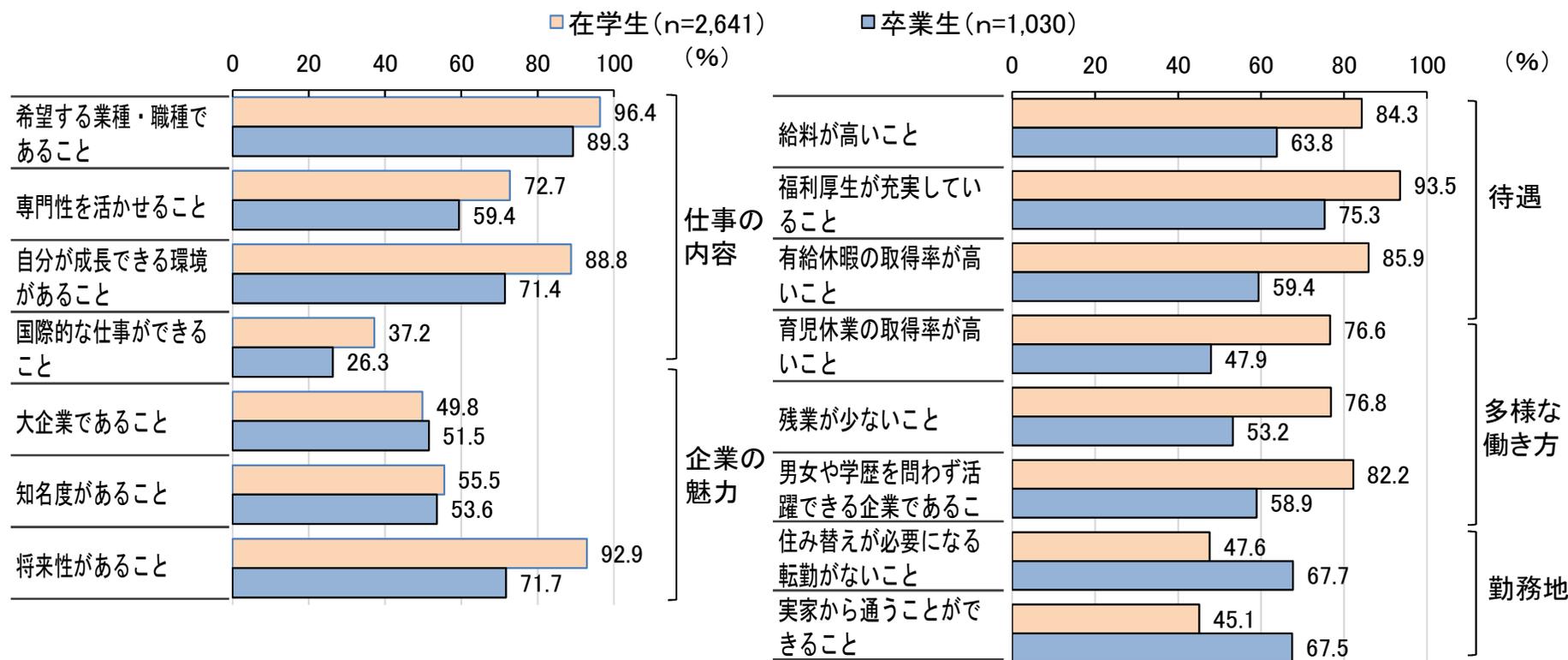
※ 各回答割合は、質問に対して、「重視している」及び「やや重視している」と回答した割合の計

県内大学在學生と卒業生の就職に対する意識の比較



Q: 志望する就職先を検討するにあたり、重視する(した)こと(在學生・卒業生別)

- 在學生と卒業生ともに、「希望する業種・職種であること」(在學生:96.4%、卒業生:89.3%)、「福利厚生が充実していること」(在學生:93.5%、卒業生:75.3%)、「将来性があること」(在學生:92.9%、卒業生:71.7%)の割合が高い。
- 多くの項目において在學生の割合が卒業生を上回る中で、卒業生が在學生を上回るのは、「住み替えが必要になる転勤がないこと」(在學生:47.6%、卒業生:67.7%)や「実家から通うことができること」(在學生:45.1%、卒業生:67.5%)といった、勤務地に対する項目である。



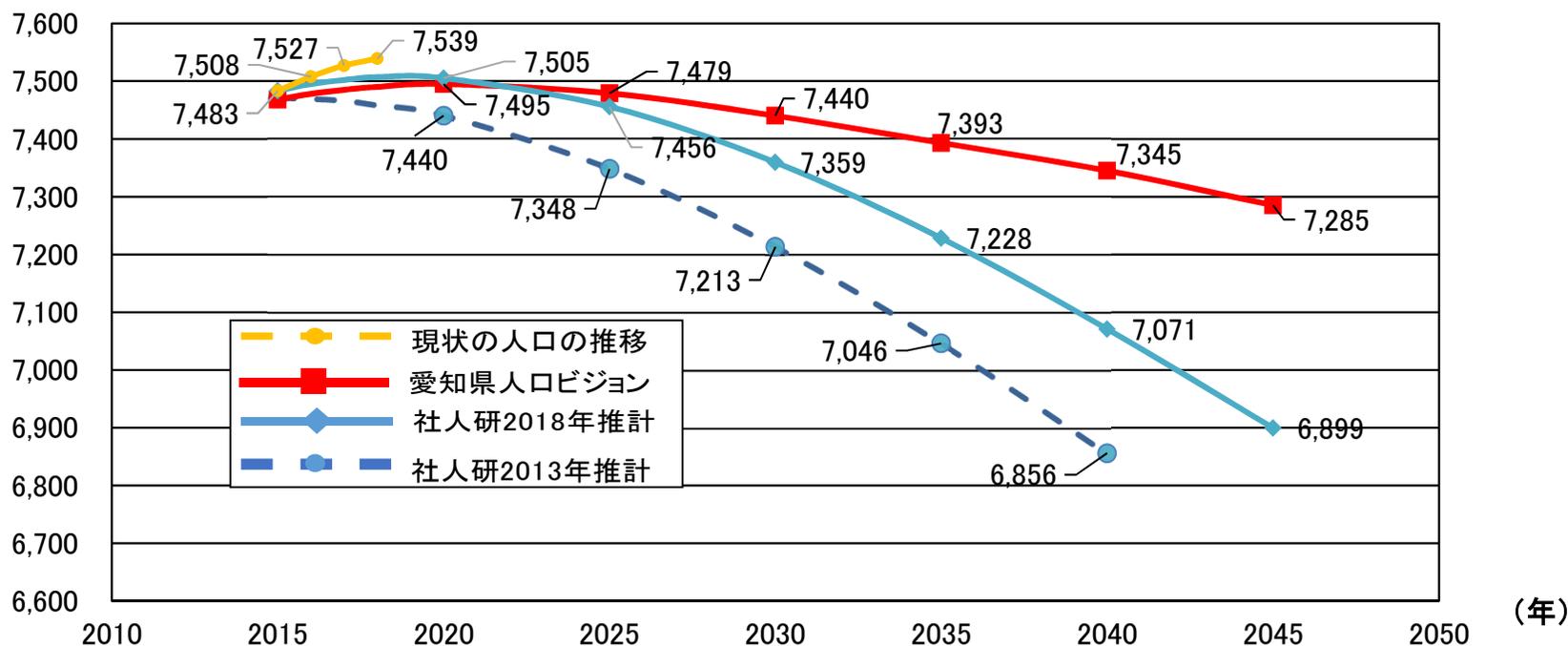
※ 各回答割合は、質問に対して、「重視している(いた)」及び「やや重視している(いた)」と回答した割合の計

愛知県の将来人口推計



- 国立社会保障・人口問題研究所(社人研)が2013年に公表した推計によると、本県の人口のピークは2015年とされていたが、2018年の社人研の推計は、近年の出生率の上昇や転入者の増加が織り込まれたことから、人口のピークが遅れるとともに、人口減少のペースがやや緩和されている。
- 本県が2015年10月に策定した「人口ビジョン」では、本県の人口は2020年頃をピークとして、2060年まで700万人程度の人口を確保するとした推計を示したが、現状の本県人口をみると、「人口ビジョン」や社人研の推計を上回る水準で推移している。

(千人)



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018年）推計、（平成25（2013年）推計）」、愛知県「愛知県人口ビジョン」（2015年10月）、愛知県「あいちの人口」

なお、人口ビジョンの推計は以下の前提条件のもとに推計している。

[前提条件]

<出生率>2030年までに1.8、2040年に2.07に回復 <移動率>愛知県の過去20年（1990→2010年）の平均移動率で推移すると想定